



楓の巣

R712.4(第10号)
文責:高田 幸伸

大盛況でした。 「なかよしフェスタと販売会」



〈手づくり紙飛行機レクチャーの様子↑〉

十一月二十一日(金)、小学校わかば学級・中学校もみじ学級合同でなかよしフェスタを実施し、多くの保護者や職員の参加のもとでにぎやかな学習の場となりました。

開会行事では、小学生と協力しながら中学生を中心に行いました。

フェスタでは、たくさんのブースが並びました。手作り紙飛行機、しゃてきボーリング、ピンポンダーツ、わくわくゴルフランド、釣り堀、ころころころりん、づくりおもちゃの店などが展開され大賑わいとなりました。子ども達は、自分が担当するブースの紹介や活動の案内、ブースで使用する仮通貨の会計処理等緊張しながらも、楽しみながら学習を進めることができました。参加された保護者の方々、職員も笑顔に満ち溢れていきました。また、十一月二十七日(木)には、もみじ学級による販売会を実施しました。自分たちで栽培した立派なさつまいも、クリスマスリース、キーホルダー、PPバンドを使用したかごなど品数が多く、選ぶのにも迷うほどでした。多くの職員が訪れました。この販売会の収益は十二月に予定されている校外学習などの活動に活用します。

十一月二十九日(土)、全国中学生人権作文コンテストの表彰式が熊本市民会館で行われ、本校三年生の長賞として表彰されました。他にも本校から二年生のさんが「熊本県人権擁護委員連合会長賞」として表彰されました。他にも本校から二年生のさんが奨励賞を受賞しています。おめでとうございます。

「外国人も住み良い社会になるために」

三年

私の母は、韓国人です。私には、日本と韓国の両方の血が流れています。母の話す言葉や文化が日本と違うため、時々戸惑うこともあります。家の中では、日本語と韓国語をどちらか混ぜて話しています。しかし、私は、韓国語を完璧にマスターしているわけではないので、話が咬み合わないこともあります。家族と楽しく生活しています。

しかし、学校では少し違いました。歴史の勉強をしていく中で、韓国のことが話題になるたびに、いつもドキドキしてしまう自分がいたからです。

韓国との領土問題やさざまな韓国的情勢などマイナスな情報が流れた時、みなさんはどうしていますか?私は、「韓国嫌い」「韓国は治安が悪い」などという言葉を実際に聞いたことが何度もあります。

母はこのような報道と関わっている訳ではないし、もちろん韓国人全員が関わっているわけでもありません。しかし、その情報の一面だけで、さも韓国全体が悪い印象を持たれてしまします。私も何か言われるのではないか、と怖くなってしまう自分がいます。言つてはいる人は、無自覚に言つてはいることかもしれません。しかし、それを聞いた私にとっては、自分は何もしていらないのに、なぜ肩身の狭い思いをしないといけないのかと腹が立ちます。でも、私は今までその怒りを出さずに「気まずい」と笑つてごまかして逃げていました。

しかし、この考えが今では少し変わりました。それは、学校での人権学習がきっかけでした。私自身も、高校に対する勝手なイメージや偏見を持つていて、気づいたからです。「高校の偏差値で

全国中学生人権作文コンテスト 「熊本県大会表彰式」

この高校は良い高校だと思われているのが気になる。「この高校は治安が悪そうといわれて傷ついた。」などの意見がクラスから出ました。まとめて見てほしくない、その偏見で傷ついたことのある私だからこそ、どうすべきかを考えなくてはいけないと思うようになりました。

私は、自分のこと以外のことに関して少しの情報だけで決めづけに、もっとよく理解することを大切にしたいです。その国、その高校とひとくくりにまとめて考えることは、たくさんの関係のない人たちまで傷つけます。日本でもたくさんの方々が起こっています。それを外国から見て「日本は良くない」と言われたら、あなたは納得できますか?私は、日本の文化も、韓国の文化も父のことも、母のことも大好きです。だからこそ、もう逃げないで立ち向かっていきたいです。

この前、家で私と父と妹で話が盛り上がったことがあります。その時、母は「三人は日本語でたくさん思うようにしゃべれています。三人は日本人だから」と言い、少し拗ねたように見えました。私はそんな母をすごいとします。自分の出身とは違う国に住み、不安もある中、日本語を学び、私の高校受験のことも知ろうとしてくれています。そんな母や日本で暮らしている外国の人たちにも、日本のことも好きになつてほしいと思います。現在、日本には私の母に限らずたくさんの外国人たちが住んでいます。外国人たちが日本に来て、私と同じようなことを言われて「日本人は…」とか、「日本は…」という悪い印象の部分だけ日本をひとくくりにまとめてほしくもありません。私は日本人であり、外国人です。偏見によって傷ついたことがある経験を生かして、まずは私の身の回りや学級、学校から変えるために動いていきたいと思います。

※学交生活の兼子や兼々な青服は、
本校HPに随時、掲載しています。

